

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立盲学校 】

<スポーツ庁テーマ>

1実践テーマ	【 Ⅲ・Ⅴ 】
2実施対象者	本校中学部・高等部普通科生徒等 16名
3展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 (保健体育)</p> <p>② 行事名 ()</p> <p>③ その他 (課外活動)</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4目 標 (ねらい)	参加者が視覚に障害のある生徒と視覚障害者スポーツを通して交流することで、視覚障害について理解を深め、共にスポーツを楽しむ。
5取組内容	<p>今年度は新型コロナウイルス感染症の感染予防対策により、京都市立旭丘中学校との交流を行うことができなかった。</p> <p>しかし、本校生徒だけの保健体育や部活動の中で、視覚障害者スポーツのフロアバレーボールを行った。</p>
6主な成果	<p>本校生徒だけでの取組であったが、視覚障害者スポーツの楽しさや理解につながり、技術の向上にもつながった。また、近隣中学校との交流はできなかったが、「来年度は是非取り組んでみたい」「フロアバレーボールの面白さを伝えたい」と言う生徒もいた。</p>
7実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>弱視生徒もアイシェード（アイマスク）を付けて、歩行したり、手引きをしたりして支援する側、支援を受ける側それぞれの体験をとおして、見えない状態の理解を深めやすくしたり、支援する側の支援の仕方を考えたりする場面を作った。</p>



8 主な課題等	新型コロナウイルス感染症が終息すれば、今後近隣学校との交流を再開し、視覚障害者への理解やスポーツを通しての共生社会実現を押し進めていきたい。
9 来年度以降の実施予定	晴眼者も視覚障害者も一緒に楽しめるフロアバレーボールをとおして、近隣中学校との交流を深めていく予定。